

会 議 録

1 附属機関等の会議の名称

丹波篠山市脊椎動物化石保護・活用委員会

2 開催日時

令和4年3月10日（木）午後2時00分から午後3時30分まで

3 開催場所

丹波篠山市役所本庁3階 301会議室

4 会議に出席した者の氏名

(1) 委 員 樋口清一委員長、佐藤裕司副委員長、谷垣友里、押部匡子、橋本俊栄、
梶村徳全、雪岡ひとみ、日原基、藤田尚位、足立圭吾

(2) 執行機関 丹波篠山市教育長 丹後政俊

丹波篠山市教育委員会事務局文化財課 課長 村上由樹

同 係長 植木友

同 主査 山本有子

同 化石保護技術員 奥岸明彦

5 傍聴人の数

0人

6 議題及び会議の公開・非公開の別

全て公開

7 非公開の理由

該当なし

8 会議資料の名称

令和3年度丹波篠山市脊椎動物化石保護・活用委員会資料

9 審議の概要

(1) 開会

令和3年5月14日にご逝去された河合雅雄顧問及び令和4年1月12日にご逝去された三枝春生委員のご冥福を祈り黙とうを捧げる。

(2) 委員長あいさつ

(3) 教育長あいさつ

(4) 議事

1) 報告事項

令和3年度事業報告について（事務局説明）

（質疑・応答）

委員 長： 宮田の露頭では植物も出るのか。

事 務 局： 炭化したものが沢山出る。三枝先生によるとほぼ、燃えたものが残っているとのことである。炭素年代の測定に使用できるようなものが出ている。

委員 長： 宮田の地層はなぜあのような形なのか。地層が傾いていて貴重である。

副委員長： 地層の傾きについて子供たちにはどのように説明しているのか。

事 務 局： 大地の動きや活動によって地層の傾きが生じると教えている。

副委員長： 大地の動きという地殻変動により地層に傾きが生じる。地殻変動や地震は生活に関連しており、子供達も関心がもてる。

丹波市の展示は内容が充実していた。鳥にスポットを当て、鳥に近いものがワニで、ワニから恐竜へとつなげている。ワニと鳥を同じくくりで考えるのはおもしろい。生物を自分達の勝手な観点でものごとを捉えない、という面白い展示であった。

A 委員： 地層の学習から発展して校外学習プログラムを活用している。子供達は恐竜化石に引き込まれる。奥岸さんの説明はおもしろく、新たな発見がある。子供達は、タブレット等を使ってパワーポイントを自分達で作成できる環境にある。恐竜化石等について動画の配信があればいいと思う。学校からアクセスして見ることができれば子供達の興味も広がると思う。

2) 協議事項

令和4年度事業計画について（事務局説明）

（質疑・応答）

B 委員： 宮田重点保護区域の露頭は調査のために取り崩すことと、あの大規模な露頭の保存をどのように考えているのか。

事 務 局： 宮田の露頭は観察しやすく、学びやすい露頭である。大きくなくしてしまうのではなく残していきたいと思う一方、化石も発掘したいというジレンマがある。

B 委員： 資料4ページの写真を見ると、保存していくべきと感じる。

事 務 局： 資料4ページの写真は、地層に埋まった状態の化石も子供達に見せてやりたいと思い、地層の学習において見学させたものである。

委員 長： 昭和40年頃に道路ができて、貴重な資源を失ったことは残念に思う。

C 委員： 化石発掘体験で発見された化石を評価して展示すべきである。化石を発見して終わりではなく、正しく評価する必要がある。評価して展示されれば子供達が見て喜ぶ。事業についてのPRが必要。ホームページでPRすることで人の関心を寄せるべきである。事業をやるのはいいが、それについてフォローアップが必要で、フォローアップすることで関心を持ってもらえると思

う。発見された化石が日の目を見ないことが沢山あるように思う。

事務局： PRについては一番弱いところである。広域的なPRは丹波地域恐竜化石フィールドミュージアムと連携して行っている。今後は役割分担しながら高めていきたい。

D 委員： 丹波並木道中央公園はフィールドミュージアム構想においてコア施設の位置づけがなされている。子育て世代を中心に沢山の来園者がある。昨年7月には動く恐竜模型を設置したが、これは丹波地域で発見された恐竜ではない。今年度末には恐竜をモチーフとした遊具が公園の中間部分と一番奥の2カ所に約7千万円かけて設置予定。子育て世代の来園が見込まれ、丹波地域のアピールができると思う。今後も丹波篠山市と連携していきたい。また、子供や学生は化石発掘イベントに多く参加されているものの、丹波地域の恐竜化石をご存じない方もおられる。大人の方向けのPR方法を考えられてはどうか。丹波地域が恐竜化石の宝庫といった位置づけになればいい。

E 委員： フィールドミュージアム事務局は広報の役割を担っている。丹波地域の恐竜化石は学術研究の分野では進んでいるが、学術研究だけをPRしても広がっていかないのではないかと考える。民間のノウハウを活用によって丹波地域への集客アップを試みたい。今後は学術研究を中心としながら集客にも着目していくべきである。8月にはNHKの「ダーウィンが来た」という番組で丹波地域の恐竜化石が取り上げられた。素晴らしい資源を活用し、観光に視点を置いた取り組みを今後進めていきたいと考えており、ご協力をお願いする。また、オンラインセミナーについて意見があったが、3月20日に協議会によるオンラインセミナーを開催する。協議会のホームページ検索いただければと思う。

民間企業からは恐竜化石のPRを考えるなら、篠山口駅前に恐竜模型を設置すべきではないかとの意見もあり、色々なことを考えていかなければ、なかなか広がらないと考える。

A 委員： 多紀小学校ではオオサンショウウオの学習に取り組むことで環境を守るということについて学習する。丹波地域の環境を守っていく取り組みの中で子供達は丹波篠山に愛着を感じるようになる。地層の学習についても同様に、恐竜化石を発見することができる丹波篠山の地層について学ぶことにより、子供達の地域への愛着を育むことができるのではと考える。

副委員長： PRといった観光施策と教育とは違うので、区別する必要がある。教育においては情報を正しく伝える必要がある。丹波市は恐竜化石の担当が観光から教育委員会に移るので、今後は丹波市、丹波篠山市が同じ土俵で事業を進めることになる。子供向けの解説や今までとは違う地球の見方についての情報発信について両市で連携して取り組んでいただきたい。

F 委員： ティラノザウルスやトリケラトプスといった恐竜が子供たちは大好きである。丹波地域の恐竜化石について子供たちも興味を持てるよう、目に見える形で展示ができればいいと思う。

委員長： 西紀のサービスエリアで恐竜を見て、太古の生きもの館に来られた方はおられるか。

事務局： サービスエリアで恐竜を見て、太古の生きもの館に来られた方はおられないが、意識付けはできているように思う。

C 委員： フィールドミュージアム協議会の事業でサービスエリアにおいて石割調査を実施した。色々な方が興味を持って参加された。川代トンネルの工事現場から持ち帰った石の取り扱い方法についてどのように考えておられるのか。

事務局： トンネルの石は早く処理をしなければとは思っていない。宮田の重点保護区域の発掘現場における調査の方向性がはっきりした上で、トンネルの石の調査に着手したい。調査の軸足は宮田に置いている。

(5) その他

特になし

(6) 閉会

副委員長あいさつ

以上